

# 付着生物ラーバ情報

## ユウレイボヤのラーバの本格的な出現はこれから

### 1 ラーバ等の出現状況

ラーバ等の調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

#### (1) サンカクフジツボ (通称：アカガキ)

ラーバは9月26日に久栗坂沖で0.6個体/m<sup>3</sup>見られました (表1、図2)。

#### (2) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは9月26日に久栗坂沖で1.1個体/m<sup>3</sup>見られました (表1、図3)。

#### (3) その他

ムラサキイガイ、ザラボヤ、キヌマトイガイのラーバは見られていません (表1)。

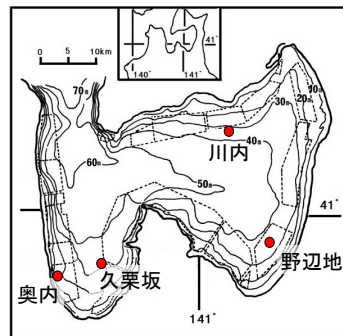


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ
奥内沖	R4.10.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	R4.9.26	1.1	0.0	0.0	0.6	0.6
野辺地沖	R4.10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	R4.9.26	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位: 個体/m<sup>3</sup>

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

### 2 今後の見込み

#### サンカクフジツボの付着直前の

ラーバが少し見られますが、付着のピークは過ぎました。殻長1mm未満の小さいサンカクフジツボは稚貝分散時に選別機を用いることで約7割除去できることが分かっています (図4) ので、分散作業を早めに進めましょう。

**ユウレイボヤ**は生息する水温が20℃以下に低下すると産卵します。現在、陸奥湾内の中層水温は21℃台になったので、**これからラーバの本格的な出現と付着が始まる**ものと思われます。未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。また、ユウレイボヤは**深いところで多く付着**することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましう。

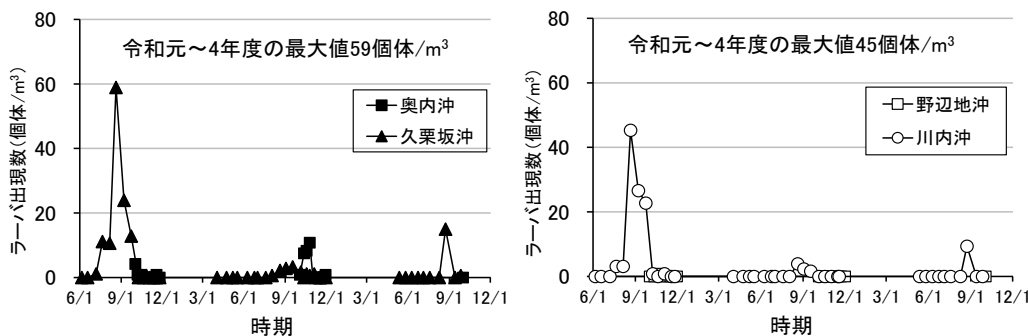


図2 サンカクフジツボラーバ出現数の推移 (令和2年6月～令和4年10月)

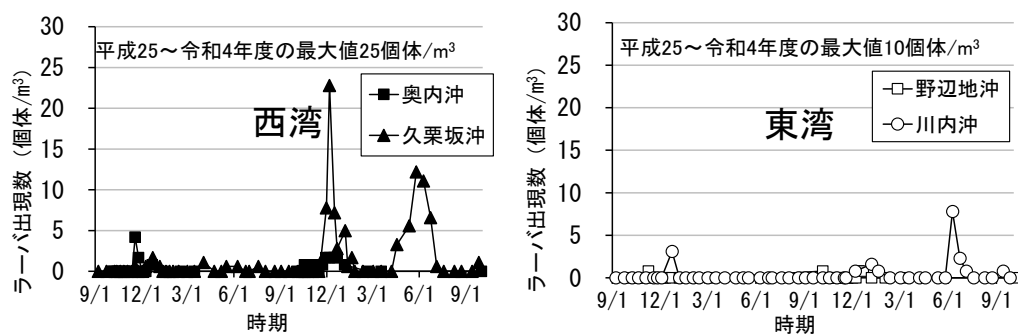


図3 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和2年9月～令和4年10月)

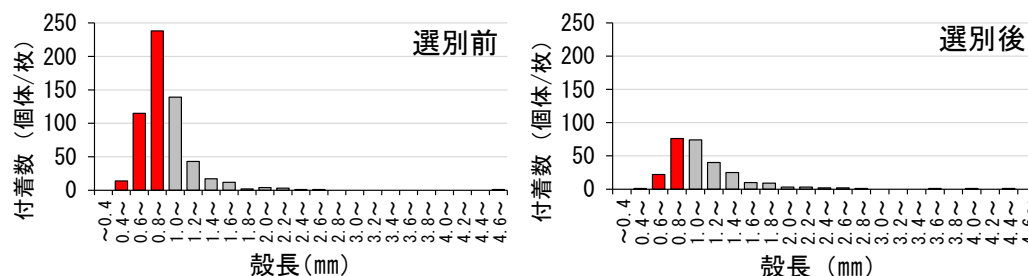


図4 令和2年9月の久栗坂沖における選別前後の稚貝1枚に付着したサンカクフジツボの付着数 (左は選別前、右は選別後)

